

2週連続 特別講義

ポスト〈歴史の終わり〉とヨーロッパ

ヨーロッパの経済に、今何が起きているのか。

ベルリンの壁が崩壊したとき、「歴史の終わり」、つまりイデオロギー対立の終焉と自由主義陣営の勝利を感じた人も多かったでしょう。しかし、その後の歴史は現在のクリミアやウクライナの問題を筆頭に、対立や紛争の永続性をむしろ証明したようにも見えます。

この特別講義では、EU（欧州連合）という理想と矛盾を抱えた国家連合に注目し、特に東欧など新加盟国と独仏などの主要国との軋轢、EU外の圧力などを、2回に渡ってその道の第一人者に講演していただきます。

「ブダペストやワルシャワから見たEU」

日時：2022年7月5日（火）11:00～12:30

場所：龍谷大学深草キャンパス和顔館201教室

講師：田中 宏氏

（立命館大学経済学部特任教授）比較経済論

EU加盟国でありながら、中央ヨーロッパ諸国（ポーランド、ハンガリー、チェコなど）では、近年、反民主主義・反EUというポピュリズムが席巻しています。彼らの合理性、金融危機への対処、およびEUの反応などを、欧州における比較経済論の第一人者である田中宏氏に講演していただきます。田中氏はワルシャワ大学に留学し、外務省専門調査員（在ハンガリー日本大使館）等を歴任され、ソ連崩壊後に起こった東欧諸国の体制転換や資本主義への移行過程を分析されてきました。

主管：クラフチック, M. K. 教授「ヨーロッパ経済論」

「EUの脱ロシア戦略」

日時：2022年7月12日（火）11:00～12:30

場所：龍谷大学深草キャンパス和顔館201教室

講師：田中 素香氏

（東北大学名誉教授、Jean Monnet Chair Professor）

ソ連崩壊後、EUは旧共産主義諸国と協力し、欧州の平和と成長を目指しました。ドイツを始め、冷戦中から「貿易を通じた変化」（Wandel durch Handel）戦略によって経済的な依存関係が深まった一方で、民主主義的な価値観を浸透させられませんでした。ロシア軍によるウクライナ侵攻によって「歴史の終わり」（F.Fukuyama）の均衡が破られた現在、ポスト・コロナ、脱ロシア、環境保護、中国との新しい関係を模索するヨーロッパの将来について、ユーロ研究・欧州経済研究の第一人者に講演していただきます。

主管：小峯敦教授「経済学史」

お申込み方法

一般参加可能

①～③の項目を明記の上、メールの件名を【特別講義申込】として下記アドレスまでお申し込みください。

①聴講希望の講演日

②氏名・所属（学籍番号など）

③対面受講かオンライン受講か（一般の方は原則、オンラインでの聴講をお願いしております）

〈申込先〉龍谷大学経済学部教授 小峯敦 mail: komine@econ.ryukoku.ac.jp 〈申込締切〉2022年6月30日（木）